

【オリコンサルグローバル・梓設計JVで詳細設計 パプアニューギニア国際空港が開港】

パプアニューギニア 国際空港が開港

オリコンサルグローバル
・梓設計JVで詳細設計

オリエンタルコンサルタンツグローバル・梓設計JVが詳細設計、入札支援、施工監理等のコンサルタント業務を実施した「パプアニューギニア国ナザブ・トモダチ国際空港」の開港式が2日、同国レイ市の現地で行われ、関係者が日本式の鏡開きなどで開港を祝った。空港開港の記念切手も販売され、式典では記念切手授与式なども行われた。式典には同国のジェームス・マラペ首相、ウォルター・シュノーベル交通航空大臣、ルター・ウエンゲモロベ州知事が、日本からは堀井巖外務副大臣、渡邊信

鏡開きで開港を祝った（右から2人目が宮越副社長、オリコンサルグローバル提供）



之在。パプアニューギニア日本国特命全権大使、松岡秀明国際協力機構（JICA）パプアニューギニア事務所所長、オリエンタルコンサルタンツグローバルの宮越一郎副社長らが出席した。空港整備事業では日本政

府の有償資金協力により、国際線の就航に必要な既設滑走路の拡張、既設誘導路の拡張・新設、駐機場の拡張、航空灯火の機能向上などをを行った。旅客ターミナルビル（S造2階建て延べ約1万0740平方メートル）や駐車場の新設を中心とした新ターミナルも整備した。

同国本島は東西に稜線（りょうせん）が走る急峻（きゅうしゅん）な地形。首都ポートモレスビー市と、第2の都市レイ市を結ぶ交通手段が空路以外になく、航空輸送はヒトやモノの移動にとって重要なインフラとなっている。ナザブ空港は進化する旅客輸送のニーズに対して設備が十分に整っておらず、ターミナルビルの老朽化も著しく、旅客手荷物や保安検査などの大

半を人力で処理している。航空灯火などの空港保安設備も更新時期を迎えている。